

【編集】ダヴィンチの遠隔活用、まずは指導から – 井坂恵一・東京国際大堀病院ロボット手術センター長に聞く◆Vol.3

婦人科での保険点数低く、各学会でデータ収集

インタビュー 2021年12月22日 (水)配信 聞き手・まとめ：星野桃代 (m3.com編集部)

【井坂恵一氏インタビュー】

- Vol.1 ロボット手術は患者にも術者にも「やさしい」
- Vol.2 婦人科初のライセンス取得、意外と患者に受け入れられた
- Vol.3 ダヴィンチの遠隔活用、まずは指導から

——日本でのロボット手術は、今後どうなっていくと思いますか。

いずれはアメリカのように、婦人科の手術件数が泌尿器科を超えるのではないかと考えています。ただ、保険点数の問題があって、泌尿器科に比べると婦人科はまだまだロボット手術の点数が低い。婦人科や外科では、腹腔鏡手術とロボット手術の点数が同じなんです。ロボットは初期投資やメンテナンスに費用がかかる分、加算がないと経営的に厳しい部分もあります。

なので、データを集めるためにロボット手術の実施が決まったら各学会に事前登録することになっています。事故や合併症の少なさを証明できれば、診療報酬を上げるためのエビデンスとして提出できますから。

——今年はロボット支援下の仙骨腔固定術が新たに保険適用されました。

大堀病院でも仙骨腔固定術をやっていますよ。潜在的な患者さんは多いと感じます。

子宮頸がんも早く保険になってほしいんですが、腹腔鏡手術が2018年に保険適用されたばかりなので、ロボット手術はこれからですね。来年か再来年に先進医療の保険審査に出したいと思って、資料をまとめています。

子宮頸がんのロボット手術は今、逆風なんです。開腹手術と低侵襲手術を比べて、開腹手術の方が予後がいいという論文がインパクトファクターの高い雑誌に載ってしまった。低侵襲手術の内訳を見ると、大部分は腹腔鏡手術ですが、ロボット手術も15%ほど含まれています。現在、ロボット手術だけに絞った別のスタディーが海外で進んでいるので、開腹手術もロボット手術も予後が変わらないという結果が出ないかと期待しています。



——著書では、遠くない将来、遠隔操作による遠隔手術ができるかもしれないとあります。

日本外科学会を中心に遠隔手術の議論が始まっていますね。そもそもダヴィンチが有名になったのは、2001年にアメリカの術者がフランスの患者の胆のう摘出術を実現したことがきっかけです。この遠隔手術は、大西洋の単独無着陸飛行に初めて成功したチャールズ・リンドバーグになぞらえて「リンドバーグ手術」と呼ばれています。ちなみに、ダヴィンチはもともと軍事目的で作られたものです。最前線で兵士が倒れた時に、医師が危険地まで行かなくても遠隔操作で緊急手術をできるようにすることが目的でした。冷戦が終わって民間に払い下げられ、医療用ロボットとして市販化されました。このようにダヴィンチは、原理的に遠隔手術を想定して作られたものなんです。

ダヴィンチの遠隔利用という点では、既に指導では使っています。別の病院での手術の様子をモニターでリアルタイムに確認しながら「そこ違いますよ」と指摘したりします。現状では遠隔手術は規制があるので、まずは遠隔指導から入れればいいと思います。

ダヴィンチの指導をする際に便利だなと思うのが、ダヴィンチが2台ある病院ならば、コンソールですぐに術者の切り替えができるので2人で手術を進められること。例えば経験の浅い術者の手術時に、上級医が「ちょっと危ないな」と判断したら、ボタンを押せば即座に上級医のコントローラーに切り替えることができます。いずれは遠隔でもこうした指導ができるようになればいいなと思っています。

——最後に、井坂先生ご自身の今後について伺います。長年いた東京医大を離れ、2019年からは市中病院に拠点を移されました。

2019年に勤めた日立総合病院は、泌尿器科がすでに多くのロボット手術を行なっていましたが、東京医大から人をずっと出していた関係もあり、婦人科のロボット手術の立ち上げに協力しました。現在は筑波大学から多くの産婦人科の先生が来ており、その先生方によって良性和悪性疾患に対するロボット手術を保険診療として引き継いでいただいています。

今度は大堀病院でも婦人科のロボット手術を始めたいということで話があり、2020年にこちらに移ってきました。立ち上げてすぐだからそこまで患者さんが集まらないだろうと思って、ダヴィンチが使えるのは僕一人でいいかなと思っていたのですが、今の時代って患者さん自らネットで調べて来られるんですよね。思ったより忙しくて、ちょっと疲れ気味です。今ならマンツーマンで教えられるので、興味のある先生はぜひ大堀病院婦人科にいらっしゃってください（笑）。

井坂 恵一（いさか・けいいち）氏

1951年、福島県生まれ。東京医科大学卒業後、スイス留学、イギリス留学を経て、2003年に東京医科大学産科婦人科学主任教授となる。2019年、日立製作所日立総合病院ロボット手術センター長を務めた後、2020年から東京国際大堀病院ロボット手術センターに。日本婦人科ロボット手術学会理事長。日本ロボット外科学会理事。

【井坂恵一氏インタビュー】

- Vol.1 [ロボット手術は患者にも術者にも「やさしい」](#)
- Vol.2 [婦人科初のライセンス取得、意外と患者に受け入れられた](#)
- Vol.3 [ダヴィンチの遠隔活用、まずは指導から](#)

シリーズ [著者インタビュー](#) »

記事検索

ニュース・医療維新を検索

